

～～はじめてましてのご挨拶～～

皆様、初めまして。昨年6月末に入社した橋本一輝と申します。
入社して半年が経ち、職場の雰囲気にも慣れ、毎日他の社員の方々と
元気に・楽しく働いています。

私は、昨年大学を卒業しましたので、社会人1年目になりますが、毎日仕事をして
いると時間が過ぎるのが本当にあっという間だなとしみじみと感じております。そん
な中でも限られた時間を有効に使い、まずは社会人としての自分の中での軸を作
っていききたいと思います。皆様、今後ともよろしくお願いいたします。



橋本 一輝

私のつぶやき

～～あれから1年～～

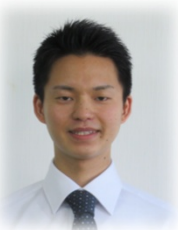
先日、ついにオンライン飲み会をしました。

飲み会といっても2人なので会と言えるのかは分かりませんが。

画面越しは話しにくい、環境を整えるのがめんどくさそうを思っていたが、
いざ飲み会がスタートすると会話がはずみ、夜遅い時間になっていました。

流行に遅れつつも、なんとか乗れたかなと思います。

何事も最初は不安が多いものですが、いざやってみると何てことはないのかもしれない。コロナウイル
スが流行りだして1年が経ちます。時代が変わってきた今、変化にのまれるのではなく、自分から変化に
向かっていきたいと感じました。



宅野 洸希

1～3月の税務・お知らせ



- ・1月…源泉所得税の納付
- ・2月…所得税の確定申告 2/16～ ・ 贈与税の申告 2/1～
- ・3月…所得税の確定申告 3/15まで ・ 贈与税の申告 3/15まで

お休みカレンダー

2021年 1月							2021年 2月							2021年 3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27
24 31	25	26	27	28	29	30	28							28	29	30	31			

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！

※ 過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

かけはし

Vol.47
冬号

2021年1月



2018年 会社前の庭にて

体調と健康には気をつけ、外出する
時はしっかり対策しましょう。
今年は幸多き年になる事を願っ
ております。



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL (0856) 23-6116 FAX (0856) 23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP <http://annokaikai.com>

こんにちは、ビジネスプランの安野広明です。

新年、明けましておめでとうございます。

今年は、新型コロナの影響でお正月のコメディ・クラウン・サーカスが開催できなかったため、弊社としては珍しく静かな年末年始でした。皆様はいかがお過ごしになられたでしょうか？昨年は暗いニュースが多かったので、今年は明るい年になるといいですね。

ご承知の通り、2021年の干支は「丑（牛）」です。十二支の動物の中で最も動きが緩慢で歩みの遅い牛の年は、「先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年」と言われています。

また、十二支の2番目の干支であることから、子年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされ、「結果につながる道をコツコツと作っていく、基礎を積み上げていく時期」を意味するのだそうです。今年は、着実に一つずつ仕事を前へ進めていくことが、将来の成功につながるのかもしれません。皆様の今後ますますの繁盛とご多幸を、心より祈念しております。それでは本年も、どうぞよろしくお願いします！

「とことん考えるのが、人間としての価値」

新型コロナウイルスの話題に隠れてあまり目立ちませんが、AI（人工知能）は日々進化し、いわゆるGAF（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン）に代表されるプラットフォーマーが、ますます強化化していると感じます。

Amazonでよく見る、「お客様におすすめの商品」「〇〇とよく一緒に購入されている商品」「〇〇をチェックした人はこんな商品もチェックしています」のように、個人の好みや傾向などのビッグデータを集約し、ビジネスに実装させる。人々はそれに誘導され、買い物をする時には、自分で考えずともクリックひとつでできてしまいます。

私もたまに、誘導されるがままに買った後、ふと思うのです。

「これって、“自分の好みはこうだ”と思い込まされているのではないか？」「考えないのに慣れてしまうと、AIにコントロールされているのと同じではないか？」・・・と。

確かに、考えない方が楽かもしれませんが、このままさらにAIが進化し、ほぼ完全にコントロールされるようなことになれば、もはや、人間が人間ではなくなってしまう！？ような気すらします。恐ろしや・・・

やはり、何より大切にしたいのは、自分の頭で考える力ですし、とりわけ、答えのない問いをとことん考え続けることは、人間にしかできないはず。

そして会社経営においては、まさに、経営理念やビジョンがそれに該当します。そこには、「経営者としての志」や「会社の夢」や「ありたい姿」が表現される訳ですが、いずれも、どこまでいっても終着点のない、北極星のようなものです。

それでも、「どうすれば少しでも近づけるのか？」をとことん考え、行動し、また考える。その姿やプロセスこそが、人間としての存在価値だと思っています。

AIを活用することで効率化できるところは効率化し、人にしかできない非効率・非合理で答えのないところはとことん考える。これからの時代は、そういったスタンスが求められるのではないのでしょうか。少なくとも、AIに思考力を奪われないよう気を付けたいものです。



代表取締役
安野 広明

セミナー報告

昨年、松江市のサンラポーむらくもにて、島根県主催の「人財塾」が開催され、弊社代表の安野が10月、12月の2回に渡り講師を務めました。参加された経営者の皆様は熱心にメモを取られ、アンケートでも高評価をいただくことができました。



10月 経営計画作成講座Ⅰ（方針編）



12月 経営計画作成講座Ⅱ（数字編）

本の紹介



『ハチドリの一しずく』

いま、私にできること』

監修: 辻 信一

「ハチドリの一しずく」は、南アメリカの先住民に伝わるお話です。

あるドラマで知り、数年前に購入した本ですが、私自身、何か考えることがあったり、不安になったりするときに、読み返す数冊の内の一冊です。

「ハチドリの一しずく」のお話は、初めの数ページ、数行です。たったそれだけの文章で、自信を持てたり、考えたりといろいろな想いが巡ります。「私は、私にできることをしているだけ」と言える強さを持ちたいです。



佐々木 康恵

「制約は創造の母である」



仕事をしていると、様々な制約があるものです。お金が足りない、時間が足りない、人手が足りない・・・などなど。とりわけ、昨年の4月に残業規制が法律化されてからは、「時間が足りない」と感じている方は増えていると思います。

とはいえ、制約というのは、必ずしも悪いことばかりではありません。むしろ、この制約の中で、どうやって仕事を効率的にこなしていくか？生産性を高めるか？といった創造力や発想力にスイッチが入り、場合によっては、潜在能力が引き出されることもあるでしょう。

例えば、「真っ白な紙に、自由に何でも絵を書いて下さい」と言われても、多くの人はピンとこないし、困りますよね。大まかにでも何かテーマを与えられたら、自らの想像を働かせ、好きなように描き始めるはず。これは、（絵のテーマという）制約が加わっているにもかかわらず、自由度が上がっているのと同じ。まさに、「制約は創造の母」と呼ばれる所以です。

ただ残念ながら、人によっては、制約が創造につながらない場合もあります。それは、「時間が足りないからできなくても仕方ない」「人手が足りないから無理」などと、いつまでも制約を言い訳にし続けて、前向きに考えようとしません。

おそらくそういうタイプの人は、自分の頭で考えるクセが身に付いていないため、制約が解消されたらされたで、無駄に時間を浪費する可能性が高いでしょう。制約を緩めれば緩めただけ、気持ちも緩むからです。もしも社内がそんな人ばかりだったとしたら、組織としての成長は行き詰まってしまう・・・。

したがって、少なくとも経営者やリーダーは、制約を創造へとつなげなければなりません。そしてそのためにも、コロナ禍で制約が増える中、「だからこそ、どうするのか？」という創造力や発想力をフル回転で発揮したいもの。そんな風に考えています。

「コロナ禍は、下へ下へと根を伸ばす時期」



以前、大田市にある、県立三瓶自然館サヒメルへ訪れた際、三瓶山近くで発掘されたという約4千年前の杉を見たことがあります。巨大な幹と根株の実物が展示されていて、その迫力には圧倒されました。

とりわけ、根の部分は、さすがに先の方は朽ち果てていましたが、それでも、「1本の杉を支えるのに、これほどの根が必要なのか・・・」と、考えさせられるものがありました。何より、地下に根を深く伸ばすために、精一杯、もがき苦しんだ痕跡が見て取れたのです。

よくよく考えると、これはどんな植物でも一緒に、花であれば花びらや、果物であれば果実など、私たちは、目に見える綺麗な部分にばかり意識を向け、目に見えない、地下で支えている根の部分にまではなかなか意識が至りません。

しかし本来、偉大なのは根であり、それは、花や果実のようなスポットライトを浴びることはないし、地味で目立たないけれども、確かにその植物の基盤になっているのです。

そしてこのことは、人間に置き換えても同じ。

成功を目指して上ばかり見る前に、まず、下にしっかりと確かな根を下ろすことが、大事なのだと思います。そのプロセスは、決して楽ではないし、派手さもないし、もがき苦しむことが多いでしょう。しかし、深く根を伸ばした人は、長い目で見た時に、必ずどこかで花を咲かせる（果実を実らせる）はず。 （と信じています）

とりわけ、コロナ禍の現在、多くの（会社）が、精一杯歯を食いしばり、もがき苦しんでいるかと思えます。このタイミングを、下にしっかりと根を下ろす時期だと解釈し、なんとか乗り切りましょう。

「何も咲かない寒い日は下へ下へと根を伸ばせ。 やがて大きな花が咲く」

（元三洋電機副社長 後藤清一氏の言葉より）

「心の器のサイズを広げていく」



例えば、両手じゃないと持ち上がらないような大きな石を、器一杯に入った水の中に投げ入れたとします。仮に、水の入っている器がお茶碗だとしたら、一瞬で、器ごとバリリンと砕け散ってしまうでしょう。器が風呂桶ならば、ドボンと水しぶきが上がり、大きく波立ち、かなりの水がこぼれてしまいます。小さな池ならば、ポチャンと大きな音がした後、池全体に波紋が広がっていくでしょう。では、湖だったら？川だったら？海だったら？サイズが広がれば広がるほど、大きな石を投げ入れても、「ポチャッと音がしたな〜」くらいの、取るに足らない影響しか及ぼさないはずですよ。

そして、ここでいう石は、「日常において起こる出来事」を、器は「自分の心」を意味します。つまり、心の器のサイズ如何によって、同じ出来事にぶつかっても、その時の感情の揺さぶられ方や影響の度合いが異なるということ。言い換えれば、心の器が大きいほど、どんな出来事が起きてもたいしたことは感じないとなります。

例えば、新型コロナという出来事自体は誰にとっても同じですが、それによって（物理的には振り回されるにしても、）心まで振り回されるかどうかは、人それぞれなのです。

では、どうすれば自分の器を広げられるのか？残念ながら、こればかりは、器の小さい私に語る資格はございません（汗）。

ただ一つ言えるのは、誰かが広げてくれるのでも、何かアイテムをゲットすれば広がるものでもなく、自分の力で少しずつ広げていくしかないということ。そしてそのためにも、日常で起こる出来事から目をそらさず、なおかつ、振り返りによって、経験の中でしか得られない学びや気づきを1つ1つ丁寧に拾い上げる必要があると考えています。

昨年より、安野広明のメールマガジン「桃栗(ももくり)メルマガ」を始めました。「桃栗経営による永続的な発展と、“人”と“組織”が成長するための視点の提供」を目的とし、毎週月曜日にお届けしています。そちらでは、メルマガ読者限定のセミナーや勉強会の情報も発信していますので、よろしければご登録下さい。登録方法は、お電話にてご連絡いただくか、弊社ホームページより可能です。（「あんの会計」で検索→トップページの「会社概要」をクリックしていただければ、「登録フォーム」がございます）

<安野からのおすすめコーナー>

＊このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かのご参考にしていただけると幸いです！

📖書籍『波の上のキネマ』（著者 増山実）

小さな映画館を創業した祖父は若い頃、脱出不可能と言われた「緑の牢獄」にいた。現代へと繋がる情熱と覚悟、驚きの運命…。歴史のうねりと個人の生が紡ぐ、感動の小説です。不思議な世界観にググッと引き込まれ、あっという間に読み終えてしまいました。増山作品は、以前もこのコーナーで『勇者たちへの伝言』を紹介させていただきましたが、また少し毛色の異なる作品でおすすめです。

🎬映画『舟を編む』（監督 石井裕也 主演 松田龍平 製作2013年）

出版社・玄武書房に勤める馬締光也(まじめ みつや)は、営業部で変わり者として持て余されていたが、言葉に対する天才的なセンスを見出され、辞書編集部に移動になる。新しい辞書「大渡海(だいとかい)」——見出し語は24万語。完成まで15年。編集方針は「今を生きる辞書」。馬締は辞書編纂(へんさん)の世界に没頭する。果たして「大渡海」は完成するのか？「辞書は、言葉の海を渡る舟。編集者はその海を渡る舟を編んでいく」の意味から、同タイトルが付いたのだとか。コツコツと丁寧に言葉を編んでいく姿が印象に残る、感動作です。

🎬映画『アラビアのロレンス』（監督 デビッド・リーン 主演 ピーター・オトゥール 製作1962年）

1914年、第一次世界大戦が勃発し、アラビアはドイツと結んだトルコ帝国の圧政下にあった。英国は、ドイツ連合軍の勢力を分散させるため、稀代の天才戦略家ロレンスをアラビアに派遣する。アラビ王族のファイサル王子の軍事顧問となったロレンスは、独自のゲリラ戦法を駆使して反乱軍を指揮し、アラブ国民から砂漠の英雄とたたわれるようになる。だが次第に自分が軍上層部に利用されていることを知り、アラブ民族もまた、部族間の対立からロレンスを裏切っていく…。CGの無い時代に、これほど壮大なスケールの映画を製作できたことに驚きました。長編ですが、美しい映像と名シーンが多く、時間を忘れて物語に入り込めます。